

「江別市観光振興計画(案)」に対する意見募集の結果と市の考え方

平成30年2月

江別市経済部商工労働課(商店街・観光振興担当)

■意見の募集結果

募集期間	平成29年12月4日～平成30年1月5日
提出者数	5人
提出件数	13件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名詞やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

「江別市観光振興計画(案)に関するご意見一覧」

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
1	本州から来道する観光客にも江別と聞いてすぐにわかるように、本州で催される北海道物産展に参加し、「北海道に江別あり」という存在感をアピールしてほしい。	道外での物産展などについては、物産展への参加につながる道外バイヤーの集まる商談会への出展助成なども実施しており、今後も道外への販路拡大など江別のPRにつながるよう事業実施に努めてまいります。	C
2	計画に記載されている課題5点を逆に強みにし、観光の魅力に還るには、数ある江別の魅力が散らばっているそれぞれの点を結び、そして面とする施設として全国に例のない教育と研究を基盤とした「道の駅」を整備することも一方策と考えます。	道の駅の整備に関しては、基本方針1. 観光資源を活かした魅力づくり: 基本施策1-1-(5)「道の駅による観光振興の可能性の検討」として、江別の地域性を踏まえた道の駅による観光振興の可能性について平成30年・31年に検討してまいります。	B
3	基本方針1の「観光資源を活かした魅力づくり」とあるが、学生時代から江別で過ごし、現在も江別で仕事をしているが、大きな観光資源はないと思う。しかし、農業(町村農場、トンデンファーム、酪農学園等)、スポーツ(十種競技の右代選手、北翔大学の生涯スポーツ学部、とわの森三愛高校のトップアスリートコース、立命館慶翔高校の課外活動等)、大学(札幌学院大学、北翔大学、北海道情報大学、酪農学園大学)が魅力のある資源であると考えられるので、この資源を観光に取り入れることを検討願いたい。	観光資源に関しては、現在観光に関するニーズの多様化が進んでいることから、スポーツ、大学など江別の持つ様々な魅力が観光資源として活用できると考えており、基本方針1. 観光資源を活かした魅力づくり: 基本施策1-1-(3)「観光資源の磨き上げと発掘」のなかで観光への活用を検討するほか、農業については基本施策1-1-(1)「食の魅力体験プログラムの充実」や基本施策1-2-(6)「グリーンツーリズムの推進」のなかで取り組んでまいります。	B
4	基本方針2の「魅力を伝える観光プロモーション」は隣に札幌市があるので、どうしても影の薄い存在になり、マスメディア等を活用してうまく宣伝しても札幌に付随した扱いとなってしまうと思う。そこで札幌市にはない「道の駅」を整備し、江別のことは道の駅に行けばわかるという情報発信を行う。道の駅に行けば、江別の生産物は手に入る、又は販売所の紹介を受けられるようにする。必要な情報(江別市役所の出張所機能を持たせてもよい)は道の駅で得られるようにし、まずは江別市民又は近隣住民を取り込む。賑わいができることで、観光地化することを目標とする。	道の駅に関しては、基本方針1. 観光資源を活かした魅力づくり: 基本施策1-1-(5)「道の駅による観光振興の可能性の検討」として、江別の地域性を踏まえた道の駅による観光振興の可能性について平成30年・31年に検討する際に情報発信等に関しても併せて検討してまいります。	B
5	基本方針3の「市民や事業者が実感する観光まちづくり」は、江別市の観光に関わることで市民・事業者がメリットを得ることが出来なければ積極的な関わりは期待できない。市民・事業者が何らかの目標を達成することでメリットを享受できる仕組みを確立できれば、市民・事業者も意識が高まり江別市としても観光によるまちづくりをより推進できる。	市民や事業者の方々の意識向上に関しては、基本方針3. 市民や事業者が実感する観光まちづくり: 基本施策3-1-(14)「観光人材の育成」のなかで、観光振興が地域に与えるメリットは何かをセミナー等を通じ地域が一体となって取り組むことが不可欠であることを理解する機会を設けるなど観光に対する機運の醸成に取り組んでまいります。	B

「江別市観光振興計画(案)に関するご意見一覧」

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
6	市のホームページにスマートフォンからアクセスしてページの上の位置に江別の観光のバナーを置く。江別コレクションのページは今はスマホ対応になっていないので、スマホ対応にし、言語は最低英語、韓国語、中国語ページを日本語の情報量レイアウトと同じにする(札幌がやっているようにユーザーのスマホでの設定言語に対応することもいい)。	ホームページデザインやスマートフォン対応、多言語対応に関しては、基本方針2. 魅力を伝える観光プロモーション: 基本施策2-1-(9)「マスメディアやインターネットの活用」のなかでICTの有効活用に取り組むこととしており、実施について検討してまいります。	B
7	公衆無線LANは災害時の対応の備えにもなり公民館や体育館などもセキュリティ対策をして設置する。セラミックアートセンター(代表的な観光スポットである)と国際センターは特に設置すべき(江別市国際交流推進協議会の役員は高齢化し国際交流のIT機器の意義は認識が低いので市が主導してやってもらう)。	公衆無線LANに関しては、基本方針3. 市民や事業者が実感する観光まちづくり: 基本施策3-2-(15)「環境整備の推進」のなかで、観光客の利便性向上に向けた整備について検討・協議してまいります。	B
8	江別は古墳など歴史的視点も興味深いので歴史も外国語対応にしてウェブページを公開する。	ホームページの拡充に関しては、基本方針2. 魅力を伝える観光プロモーション: 基本施策2-1-(9)「マスメディアやインターネットの活用」のなかでICTの有効活用に取り組むこととしており、実施について検討してまいります。	C
9	江別市だけを目的に観光に来ることは考えにくいので札幌広域圏でスマホ用の観光アプリを作るのもいいと思える。	広域圏での観光アプリに関しては、基本方針2. 魅力を伝える観光プロモーション: 基本施策2-3-(12)「広域団体や近隣市町村との連携」のなかで共同での情報発信、広域での観光周遊について検討してまいります。	B
10	野幌駅周辺に有料駐車場が多すぎだと思います。聞くとところによると、あの辺りに店を出す際は、店舗の専用駐車場は作れないという制約があるとのことですが有料駐車場ばかりあってもお客さんをお呼びしないのではないかと思います。	観光振興計画(案)以外のご意見としてお聞きします。 野幌駅周辺地区商店街活性化促進事業の参考とさせていただきます。	E

「江別市観光振興計画(案)に関するご意見一覧」

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
11	市内に宿泊施設が無さすぎます。泊まる場所が無ければ、素通りも当然だと思います。	ご指摘のとおり市内には観光客向けの宿泊施設が少ないため、本計画では江別市の目指す観光像として宿泊を伴わない道央圏からの誘客を目指し、江別の魅力を体験していただけるような計画としております。	D
12	江別市内で、江別地区・野幌地区・大麻地区で分断されている印象もあります。駅間の距離が長いせいもあるので、それぞれ良いところを見て回れるように、バスや電車の江別市内1日きっぷがあればよいかなと思います。	自動車以外の交通手段に関しては、基本方針3. 市民や事業者が実感する観光まちづくり:基本施策3-2-(16)「二次交通の整備」のなかで、自動車以外の交通手段で訪れる観光客の利便性向上に向けた交通手段について検討・協議してまいります。	C
13	SNSの活用については、江別市関連の投稿の際に、ハッシュタグで「#北海道」「#hokkaido」と付けてもらうのはどうでしょうか。ただ「#江別」と付けただけでは、江別を知らない人は見ないでしょう。「#北海道」「#hokkaido」と付けることにより、北海道を知ってても江別市は知らないという人に向けて、アピールできるのではないかと思います。	SNSの活用に関しては、基本方針2. 魅力を伝える観光プロモーション:基本施策2-1-(9)「マスメディアやインターネットの活用」のなかでSNSなどの動く情報を提供する仕組みづくりについて検討・実施してまいります。	C